

鉄の6世紀 北九州の装飾古墳に和鉄の道を重ねて

装飾古墳群は古代 産鉄の技術集団が残した和鉄の道でなかったか・・・

2005.3.1. by Mutsu Nakanishi



6世紀装飾古墳文化が花咲いた熊本県 菊池川中流域 山鹿市周辺



熊本県菊池川流域の装飾古墳 左 鍋田 27号横穴墳 右 チブサン古墳



前室 玄室 石屋形と奥壁
福岡県遠賀川流域 王塚装飾古墳の内部 (復元 王塚古墳館 展示より)

北九州に偏在する装飾古墳の名前を聞いた時には「高松塚やキトラ古墳のルーツになつた日本固有の文様壁がを持った装飾古墳が日本各地に点在する。」程度の軽い気持でありました。

ところが、昨年9月 熊本県菊池川中流域の装飾古墳を訪ね、色鮮やかな謎の文様の世界に引き込まれてしまいました。そこで、装飾古墳の集積地の分布地図を見て、またこの菊池川流域から砂鉄が取れることを聞いて、この装飾古墳の集積地が日本各地の「産鉄の地」に重なるのにビックリ。

ちょうど同じ頃 河内生駒山の南端が大和川に落ちるところに存在する「大県製鉄遺跡」(5世紀後半の大和王権の大鍛冶工房。精錬を開始していたのでないかと見られる)と重なる生駒連山南端の高井戸横穴古墳群の中にも同じような形象文様の横穴墳があること思い出し、「これらの装飾古墳群は鉄自給を模索する人たちの残した足跡ではないか。。。 古代の和鉄の道」と夢を膨らませました。

「装飾古墳は鉄の自給のため、大陸・朝鮮半島からやってきた産鉄の技術集団の足跡ではないか・・・」

「鉄の自給に必死に取り組んだこの時代 先たたら技術集団と重なるのではないか・・・」

なんでもかんでも 鉄に結び付けて・・・とは 思いながら 調べはじめましたが、実に面白い。

妄想かもしれませんが・・・

北九州の装飾古墳 Walk に今まで歩いた「和鉄の道」資料を重ねて 「鉄の6世紀 日本誕生と鉄の自給」にかけたロマンを追いかけてみました。

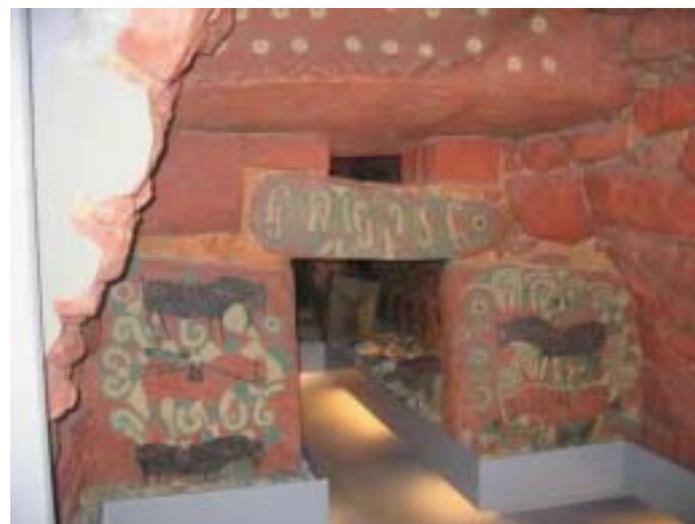
1. 古代 北九州に花咲いた装飾古墳群を訪ねて
 - 熊本県山鹿市チブサン古墳と福岡県桂川町王塚装飾古墳 -
 - 1.1 熊本県 菊池川流域の装飾古墳群 チブサン遺跡・鍋田横穴古墳群・熊本県装飾古墳館
 - 1.2. 日本で一番美しい装飾古墳 筑紫の国 王塚装飾古墳
2. 装飾古墳概要とその時代 鉄の自給へ向けた技術競争と朝鮮
 - 2.1. 北九州など限られた大河流域で花咲いた謎の装飾古墳群
 - 2.2. 装飾古墳の時代 大和王権の建設期 鉄の安定供給を求めて大陸・朝鮮へ
3. 熊本県菊池川流域に古代「火（肥）の国」の製鉄遺跡群を探して
 - 菊池川下流北岸に点在する小岱山製鉄遺跡群と玉名市疋田「炭焼き長者」伝説-
4. 日本の古代製鉄地帯と装飾古墳群の重なり
5. 装飾古墳のルーツは・・・

1. 古代 北九州に花咲いた装飾古墳群を訪ねて

- 熊本県山鹿市チブサン古墳と福岡県桂川町王塚装飾古墳 -



熊本県菊池 チブサン古墳 と チブサン古墳内部壁画



福岡県桂川町 王塚古墳とその内部壁画

北九州の装飾古墳。北九州に古墳時代 高松塚古墳に先駆け、中国文化の影響(詳細な人物像 朱雀・亀・虎・蛇など高松塚やキトラ古墳に代表され、漆喰での上に描かれる)を受けない幾何学文様などの鮮やかな装飾壁画が岩壁に直接描かれた古墳群が現れそして忽然と消えた。

その代表が福岡県遠賀川中流の「王塚装飾古墳」や熊本県菊池川中流の「チブサン装飾古墳」。

そして 出かけた熊本県菊池川流域「チブサン古墳」と遠賀川流域の「王塚装飾古墳」で見た装飾古墳の素晴らしさ。石室の中 真っ赤な色彩に彩られ、種々の図形文様で描かれた古代の甲いの祈り・死後の世界観の謎。その素晴らしさに驚嘆。赤を貴重とした鮮やかな彩色と幾何学文様の不思議な魅力。

そして、文字がない前史とは言いながら、畿内にはすでに大和政権が立ち 色々なことが語られはじめる時代に、まったくその古墳の主がわからないミステリーにビックリ。



これら装飾古墳は5世紀後半から6世紀末までの間に数多くつくられ、北九州・茨城などきわめて限られた場所に集中的に存在。畿内では河内の高井田古墳群の中にも存在する。

その出現地が北九州の菊池川・筑後川・遠賀川沿い・吉備・伯耆淀江の国 畿内河内高井田横穴古墳群遺跡・近江そして東国の房総・常陸の国と東進する。まるで日本誕生の東遷とおなじである。

ちょうど大和政権が誕生した5世紀頃から現れ、大和政権が安定する7世紀には消えてしまう。朝鮮半島伽耶からの供給が苦しくなり、鉄の自給が始まった時と符合する。

まったくのあてずっぽうですが、『この装飾古墳は大陸・朝鮮半島からやってきた『古代製鉄「産鉄の民」』と関係が深いのではないかと強い思いを持っています。

鉄の自給に向けた対応は 朝鮮に近いこの九州でいち早く試みられたに違いない。

装飾古墳の痕跡が和鉄の道とどうかさなるのか。。。。。。

「九州の装飾古墳」と「和鉄の道」の重なりを是非しらべたい。 本当に気になる Walk でした。

これら 九州の装飾古墳を訪ねる Walk は一度 九州の・縄文・古代遺跡を訪ねる旅としてまとめましたが、今回 和鉄との道との関係でまとめる記事収録のため、それらの中から抜き出して取りまとめました。

1.1 熊本県 菊池川流域の装飾古墳群 2004.10.6.

チブサン遺跡・鍋田横穴古墳群・熊本県装飾古墳館



古墳時代の装飾古墳文化が花咲いた菊池川流域 山鹿市近辺 2004.10.6.



熊本県菊池 チブサン古墳 チブサン古墳内部壁画

10月6日 早朝 古代史同好の人たち約30名の九州 縄文・古代史のツアー。

伊丹から 阿蘇の山並みを眺めながら熊本空港へ。熊本空港からチャーターしたバスで阿蘇の山並を背後に行手に県北の山々が連なる菊池市を通過して 山鹿市へ約1時間。

この古墳時代の装飾古墳群が集積する菊池川流域 山鹿・鹿央の地域は 福岡・大分と熊本県の県境の山岳地に沿って、菊池川が流れ下り、流域には縄文・弥生時代からの遺跡が点々と連なり、その最下流部では日本最古の鉄斧が出土した地。

古墳時代になると前方後円墳を中心とした古墳群が発展し、6~7世紀には菊池川流域に日本有数の装飾古墳文化が栄えた地である。



その中心地山鹿市では頭上に燈籠をいたただき、静かに踊る優美な山鹿燈籠踊りで有名なところである。

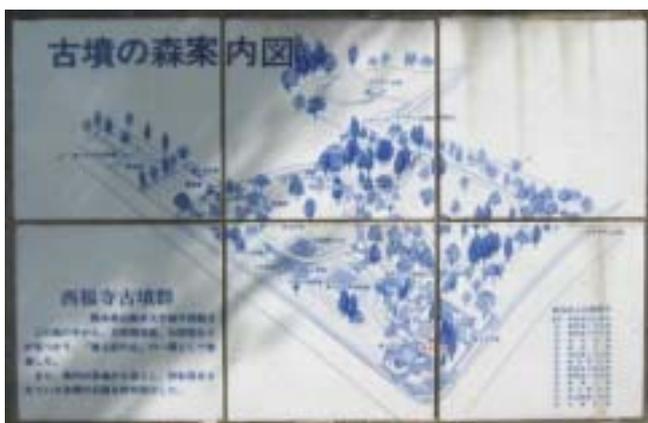
町の中を西から東へ菊池川が流れくだる温泉町である。

この町の西端で北の山岳部から流れ下る岩野川・吉田川が合流する合流点の北西岸の高台 鍋田台に山鹿市立博物館やチブサン古墳・鍋田横穴古墳群などがあり、この菊池川を挟んで南岸 鹿央町の丘陵地には岩原横穴古墳群や熊本県立装飾古墳館がある。

これら 古墳時代装飾古墳群文化の中心地は 今「肥後 古代の森」として整備されている。

このあたりから菊池川が蛇行しながら南に流れをかえ、有名な象嵌文字の剣が出土した江田船山古墳などのある菊水町を経て 玉名市で有明海にそそぐ。

a. 肥後の森 鍋田台 オブサン古墳・チブサン古墳へ



山鹿市立博物館と古墳の森案内板



肥後の森 古墳の森 鍋田台頂上部 西福寺古墳群 2004.10.6.

山鹿燈籠が街灯として立ち並ぶ山鹿市内を抜け、菊地川の支流岩野川を渡ったところに鍋田横穴古墳群の標識がみえ、ここから川岸に沿う丘陵地の細い道を何度かバスはターンしながら丘の上に出る。樹木に囲まれた公園になっていて、丘陵地の幾つもの丘に小さい幾つものこぶがが並んでいる。西福寺古墳群で良く整備された公園になっている。

丘の中腹の山鹿市立博物館で予備知識をいれて、ボランティア ガイドの案内でチブサン古墳を見学に丘を登ってゆく。丘の頂上部には方形周溝墓の西福寺古墳群が広がり幾つもの古墳が見える。天気が良いので、樹木の中に入ると本当に気持ちが良い。この頂上のすぐ下の丘にオブサン古墳。そして、そこを少し南に行くとチブサン古墳へと続く。

オブサン古墳

丘を一段下ると饅頭状の古墳の入口部に長く手を伸ばした突堤の見える古墳がある。全国でも極めて珍しい突堤付き円墳で古くから「安産の神様」として信仰されてきた「オブサン古墳」である。



オブサン古墳 2004.10.9.

直径2.2m高さ 5mの古墳時代後期(6世紀後半)の円墳で、内部に巨石積の横穴式の複式石室が築かれていて、奥室には石屋形や一部には装飾文様が描かれているという。

入口から内部にはいるとすごい湿気。ガラス窓で外部と遮断 ガラス越しにみるが、内部の装飾壁画は良くわからない。

チブサン古墳

このオブサン古墳から林を抜けて少し歩くと双子の丘に見える古墳が見えてくる。これが「チブサン古墳」である。



チブサン遺跡 2004.10.6.

チブサン遺跡は全長4.5m(後円部径2.4m、前方部幅15.7m)の前方後円墳。

古墳時代6世紀半ば頃に造られた代表的な装飾古墳。

潜道をとって、後円部に全長6mの複式石室(前室1.9m 奥室3.6m 四方の正方形)を持ち、側壁はドーム状に割石でくみ上げられ、天井は一枚の天井石でふさがれている。奥室の奥壁に沿って石屋形が築かれ、この部分に華麗な三角や菱形、同心円などの幾何学文様などが描かれ、見方によって鳥にも原始の仮面にも連想できる。

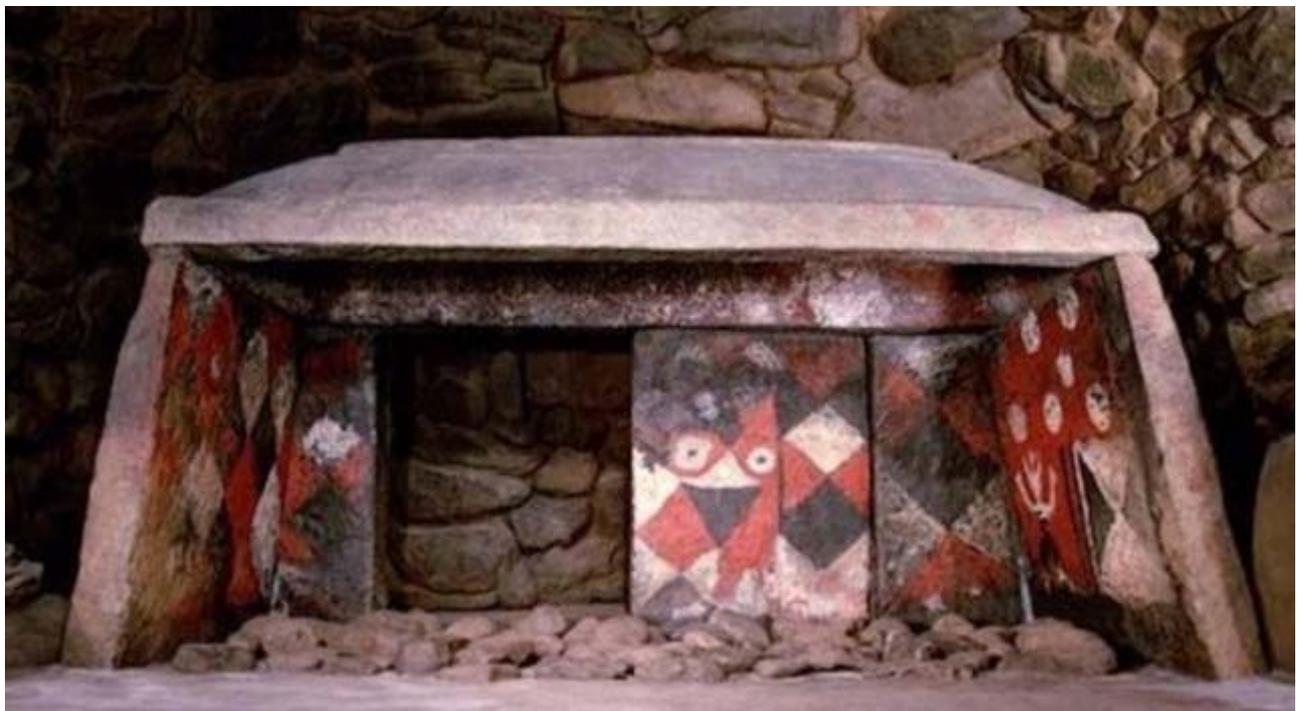
また、乳房にも見えることから「チブサン」という名がつき、「乳の神様」としての信仰を集めました。

この名前の由来は、異説があって 横穴式石室のルーツが朝鮮半島南部にあることから、韓国語のチブ(家)とサン(墓の尊称)の組み合わせが変化して、チブサンになったと推理する人もいる。

また、死者の枕元の右側の壁には、白い人物像が描かれている。

悪霊の前に立ちふさがる番兵といわれ、死者を護っている。

頭上の白い八個の円文は冥界を照らす星。また、これらの赤青白黒黄を使った絵は呪術的意図をもつ「除魔辟邪」と呼ばれているという。



チブサン遺跡内部 石屋形壁面の彩色壁画 中央に同心円など幾何学模様 右壁に白い人物
(チブサン遺跡 内部石屋形レプリカより)

そんな予備知識を頭に入れて、狭い潜道の入口から中へ。

石室の中へは 2重の扉となっていて、しかも 非常に狭い。斜めになっている長い階段のところで順番を待つ



チブサン遺跡 と その内部 石屋形壁面の彩色壁画 中央に同心円など幾何学模様

むんむんした内部 シャガんでも頭を打ちそうな狭い石室の入口からガラス越しに内部を見る。

正面にくっきりと同心円模様が赤・黒・白の彩色で鮮やかに描かれ、右壁の人物もかすかにわかる。

こんな図案が6世紀に。。。。そして、赤。おそらくベンガラで描かれたのだろう。

高松塚古墳は漆喰の壁に描かれているが、チブサン遺跡などの装飾古墳では直接壁面に描かれているので剥がれ落ちずに残っている。

また、二つの丸い同心円 「チブサン古墳」名前の由来と言われるが、ぼっと暗闇の中に浮かび上がっているのを見ると「くちばしのある妖怪」の目の玉のようにも思える。

どんな人たちがここに葬られたのだろうか。。。。薄明かりに照らされた壁画を見ながら、色々思いをめぐらす。6世紀半ばといえば、大和では三輪政権が確立し、仏教伝来(538年)そして、聖徳太子の時代前夜である。



ガラス越しに見たチブサン遺跡 石屋形内部の壁画

当初 この石屋形は石棺のごとく こちら側にも石の壁があって、密封されていたと思っていました。こちらから見えるように取り外していると思っていましたが、そうではなく、初めからこちら側はオープン。石棺ではなく石屋形の意味やつと理解。

石室の中のベッド これが石屋形でこの中に直接死者が寝かされて葬られる。独特の墓の形式である。



チブサン古墳脇にある家屋形ならびに石人像のレプリカ 2004.10.6.

熊本県は古墳の内部に彩色や彫刻で文様や図柄が描かれた装飾古墳の数で全国一。

その数はけた違いで2位の福岡県が約60基なのに対し、熊本県には187基もある。そして、これらの装飾古墳はなぜか菊池川の流域に集中し、122基が確認されている。

さらに、122群・3000基を越える横穴墓群がひしめきあって、菊池川流域に日本の装飾古墳の約4割が分布している。

「装飾古墳がなぜ 菊池川流域や福岡遠賀川流域そして茨城県などに偏在して存在するのか。」

この謎は今も解けていない。

鍋田台の東側がこの「肥後古代森林の森」の入口になっていて、台地の斜面に大きな装飾古墳説明の陶板がモニュメントとしてはめ込まれていた。山鹿市立博物館のところまで戻って昼弁当。

もう一度博物館に入ると共に、ボランティアガイドの人がふっと漏らした「菊地川は砂鉄の産地」の言葉について教えてもらう。

「菊地川では 今でも川砂鉄が取れる。 県立装飾古墳館では砂鉄を集めて、製鉄実験もしている」と教えてもらう。



熊本県の装飾古墳説明のモニュメント
肥後古代の森入口で

「やっぱり、この流域は古代製鉄の先進地ではないか。。。

装飾古墳はこの産鉄の民 産鉄の渡来人がもたらした文化でないか。。。 」 の意を強くするが、古代鉄との関係は良くわからず、装飾古墳館で聞くことにする。

山鹿市立博物館にはこの地で発見されていない石包丁型鉄器が展示され、まだ他の地域が石包丁を使っていた時代に既に鉄が使われていたことを示していた。

この菊地川流域は鉄の先進地である。

また、この鍋田台地のもう少し南側にある特異な岩山が林立する不動岩近傍で砂鉄が取れることまた、同じ山中で古代の赤顔料 ベンガラが採取されたことなどを教えてもらう。



珍しい石包丁型鉄器

そんな事を教えてもらって、鍋田の丘を東側に廻ると、菊地川の流れた家並みの向こうに、不動岩の特異な 山鹿市立博物館に展示より 石包丁型鉄器姿が見えた。

後で調べるとこの不動岩 変斑レイ岩で菊地川流域は太古の阿蘇山噴火によるマグマが変質した地質で鉄鉱物を多く含んでいることもわかった。



チブサン古墳 鍋田台から見た不動岩

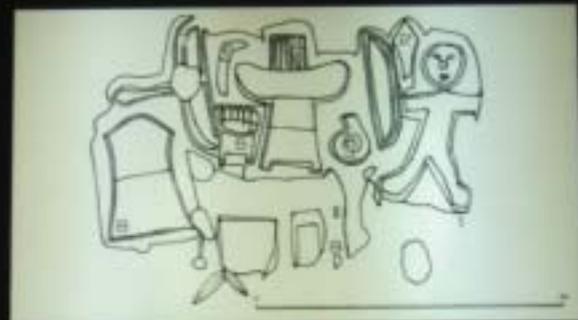
2004.10.6.

b. 鍋田横穴古墳群へ

昼食後 鍋田台を菊地川の支流岩野川の岸までおりる。

この川に沿って鍋田台の崖が続き、その崖の岩をくりぬいて幾くつもの横穴古墳があり、その数 55 基。そのうち 10 基に装飾壁画がある。鍋田横穴古墳群である。

最も多彩な壁画を持つのが、ちょうど鍋田台から下りてきたすぐ横 27 号墓の横穴で、弓をもった人物や楯（たて）などが彫刻されている。



鍋田横穴群

鍋田横穴群第27号墓

Nabeta Rock-cut Tombs No.27 Tomb

(7世紀 - 7th century)

山形県立大学 鍋田台

山形県立大学の西に、早小幡台地の南端には城地区古墳、行城地区古墳、鍋田地区古墳等の横穴群が密集している。中でも著名なのが鍋田横穴群第27号墓である。入口の右側は彫刻されているが、古く藤本正年（1948）の矢野一貞のスケッチによると、この部分にも盾や大刀や人物像が彫かれている。展示資料は入口の左側の外壁に貼られたもので、すべて浮彫りである。1は弓をもつ人物で、墓室を守る人であろう。2は手槍、3は盾、4は大きな盾、5は小さな盾、6は楯、7は矢をつがえた弓、8は楯、9は高である。以上のように文様も豊富で、装飾のある横穴の代表例である。



この鍋田横穴古墳群で一番有名なのが、第 27 号墓。入口右側にも同じ線刻画があった。

今は崩落してないが、江戸時代の残されたスケッチでそれがわかる。

ちょっと見た目には汚れていて判読しにくいけど、横穴のすぐ脇に弓を持つ人物　そして左へ順に矛先・鞆・鞆・鎌・矢をつがえた弓・盾そしてそれらの下に馬が描かれ、侵入者から葬られた人を守る人を描いている。

鍋田横穴古墳群では　大きな装飾古墳はこれだけであるが、岩野川に沿う崖に多数の横穴があり、川に沿った遊歩道から見学できる。　墓を見学しているわけであるが、全く暗さはない。

すぐ南には清流が流れ、その向こうに東の不動岩などの山々を後背として広々とした平野が西の有明海までひろがる奥まった地。ボランティアガイドの人はこの地は昔菊地川を中心とした 3 河川の合流点で、氾濫の多い肥沃な土地だったという。

鍋田台ほか菊地川に沿う高台・山裾が昔から早く開けた所以であろう。



鍋田横穴古墳群　2004.10.6.

c. 熊本県立装飾古墳館と岩原横穴古墳群



鹿央町　熊本県立装飾古墳館とそこからみた岩原古墳群

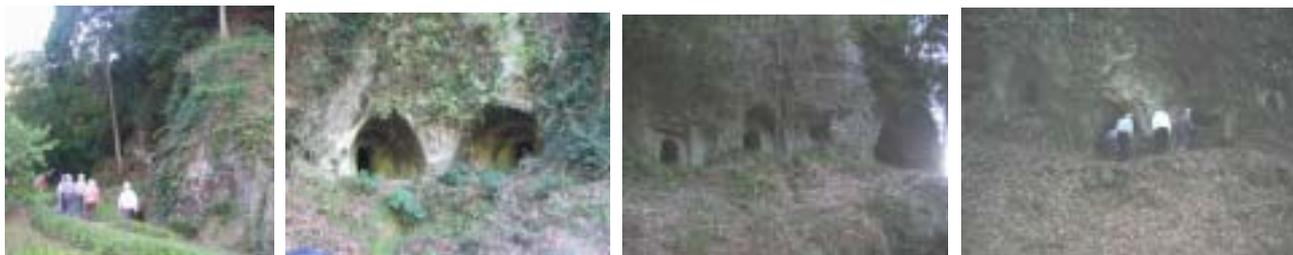
鍋田台の「肥後古代の森」から　東西に流れる菊地川を反対南側の鹿央町の高台にも 5 世紀の古墳群・横穴古墳群がある。岩原古墳群・岩原横穴古墳群で、ここも「肥後古代の森・鹿央地区」として整備されている。その中心施設として熊本県立装飾古墳館があり、熊本県の装飾古墳のレプリカ再現展示をはじめ、屋外には岩原古墳群とともに横山古墳など県内の古墳を移設復元して展示している。



鹿央町　岩原古墳群と移設復元された横山古墳　2004.10.6.

鍋田台で時間をとったため、この台地をゆっくり歩けなかったが、全長 107m の前方後円墳双子塚古墳を中心

に 12 基の円墳があり、高台の北斜面の崖には 100 基を超える岩原横穴古墳群があつた。



岩原横穴古墳群 2004.10.6.

菊池川流域を全部あるいたわけではないが、この山鹿・鹿央を中心とした菊池川流域は古墳時代の古墳の宝庫。日本誕生の先進地。そして、山鹿市の片保田東原弥生遺跡からは他の地域にはない石包丁型の鉄器が出土。西へ菊池川を下ると象嵌文字のある鉄剣が出土した菊水町江田船山古墳。

また、川砂鉄の宝庫 菊池川が海岸で形成するデルタに程近い荒尾市の小岱山には平安時代から鎌倉時代にかけてのたたら製鉄群があるという。

「この菊池川流域は産鉄の人たちが分け入った古代鉄の先進地」の思いが益々強くなる。そして、装飾古墳を作った人たちはそんな鉄の技術を持って この地にやってきた「渡来の人たち」ではないだろうか。。 鉄が演じた日本誕生へのドラマがここでもあったのだろう。

これが事実なら、もう一つの九州装飾古墳の集積地 遠賀川流域も鉄の痕跡があるだろう。昔訪ねた筑豊のたたら遺跡が頭にある。

最も美しい装飾古墳といわれる北九州 飯塚の「王塚装飾古墳」にもすぐ出かけた。

確証はないが、描いていたイメージが、益々強くなってご機嫌で、この地を後にする。

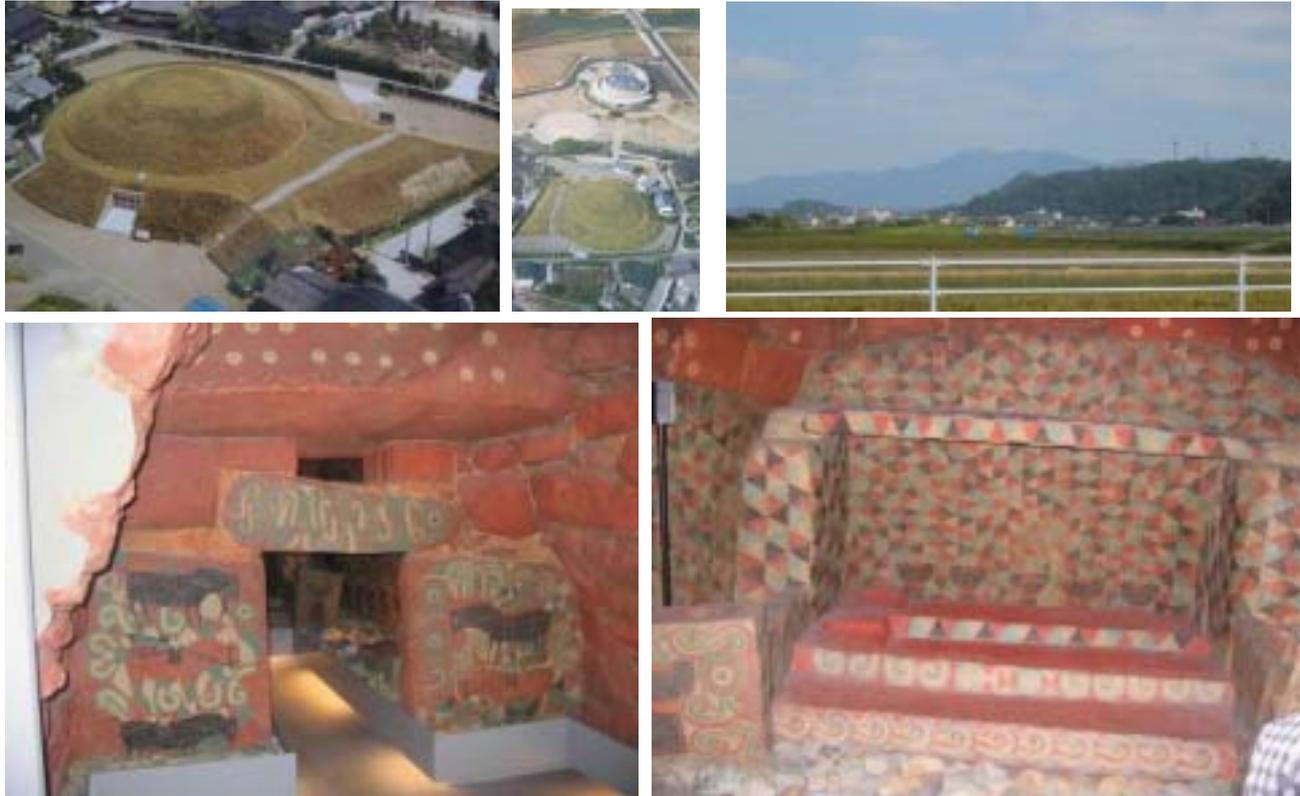
後日 10 月 15 日 北九州 飯塚の近く桂川町の王塚装飾古墳を訪ねました。その素晴らしさもすごい。

これらについては 別途 「装飾古墳群と古代鉄の先進地」とでもしてまとめます。

2004.10.6 . 九州の縄文・古代遺跡を訪ねる旅の途中で
by Mutsu Nakanishi



1.2. 日本で一番美しい装飾古墳 筑紫の国 王塚装飾古墳 2004.10.15



王塚装飾古墳 古墳内部は隣の王塚装飾古墳館に作られた復元レプリカ 2004.10.15.

九州 菊池川の装飾古墳群のチブサン古墳を訪ねて この地が産鉄の地であることを知り、北九州のもう一つの装飾古墳集積地である福岡県 遠賀川流域に是非行きたくなって 山口へいった10月15日 家内と二人 日本で一番美しい装飾古墳 筑紫の国 王塚装飾古墳を 飯塚市の南 桂川町にたずねました



王塚古墳は西に三郡山地 東に福智山地 南に古智山塊・英彦山塊にコの字囲まれた筑豊平野の中にあり、西の三郡山地の山麓を流れる穂波川と本流遠賀川の本流との合流点の位置にある。これらの山岳部は花こう岩ベルトで、豊富な金属資源・石炭の資源地帯である。

よく知らないが、王塚古墳の西の三郡山地の犬鳴山の山麓には犬鳴金山製鉄遺跡の名前が見え、北には竹原装飾古墳がある。また、遠賀川に沿って北へ進んだ英彦山の山麓添田町には多くの鉄器と共に最古の銅製のヤリカンナや金属鍛冶工房が出土した弥生後期の庄原遺跡がある。もう7,8年前になるが、3世紀の大金属工房の新聞記事を見て 飛んで見に行ったことがありました。



関門海峡を渡り、九州自動車道を九州の山並みの中を走り、美しい形の福智山のトンネルを抜けると筑豊の平野が広がる。

八幡のインターをうっかり通り過ぎて、若宮のインターを出て、飯塚の町をめざす。

飯塚で広い国道200号線にでて、南へ飯塚の町を通り抜け、遠賀川に合流する穂波川を渡ると桂川町。桂川町の街中の筑豊本線を渡ったところに王塚古墳の標識が見える。狭い道を再度西へ線路を渡った街はずれに王塚古墳その先には田園地帯と穂波川の土手があった。

関門端をわたって 一時間ちょっとの距離である。

集落に接するように巨大な前方後円墳の王塚古墳があり、その南西側に王塚装飾古墳館と広い遺跡公園が整備されている。

古墳館の前に旗が翻り、数張りのテントがあり、何かと聞くと「明日が年に一度の王塚古墳内部の公開日」と・・・。

残念では在りましたが、王塚古墳館にそっくりそのまま王塚古墳の石室が復元展示されており、かつ九州の主だった装飾古墳が復元展示されている。

こんな復元展示というとチャッチイイかげんなのが多いが、きっちり復元展示され、素晴らしい展示館で、古墳の石室内部の装飾壁画は残念ながら見られなかったが、満足した。



古墳の西南 古墳館の背後に三郡山塊

遠くに福智山

古墳館より東側に見える王塚古墳

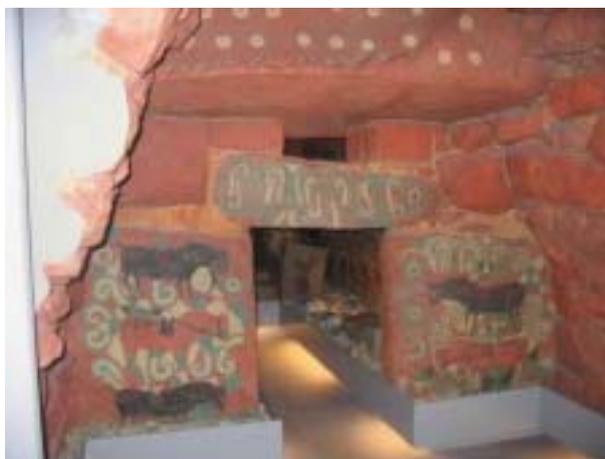


王塚古墳 前方後円墳と墳丘



王塚古墳は6世紀中頃の全長 86m 後円部径 56m 前方部幅 60m の二段築成式の前方後円墳で、墳丘の内部には全長 6.5m の複式の石室がある。この石室全体鮮やかな赤を基調に数々の幾何学文・図形文が描かれている。墳丘の上にあがって、周囲をながめる。田園地の中に遠く 福智山や三群山地の山々が見える。花崗岩地帯の山々で、これらの山々がこの一帯の勢力の源であつたらうと鉄に思いをめぐらしつつ、装飾古墳館の中に入る。

装飾古墳館には 王塚古墳をはじめ、チブサン古墳・竹原古墳など北九州の主要装飾古墳石室内部が、復元展示され、かつ、日本各地の装飾古墳ならびにその文様について わかりやすく解説パネル展示されている。



前室奥壁の小窓と装飾壁画



玄室の石屋根と奥へ木の装飾壁画



王塚古墳復元展示 石室内部 部分



吉井町 日岡古墳



若宮町 竹原古墳

日本各地の装飾古墳 復元展示



福島県 清戸サク古墳

(王塚装飾古墳館)



茨城県虎塚古墳

素晴らしい色鮮やかな装飾古墳に本当にビックリでした。

もうひとつ 興味があったのは これら装飾古墳を描いた顔料と直接壁に描いた顔料の接着剤。

古代の接着剤と顔料 まだ よくわからないところが多いようですが、実際の試験画描と共にそれぞれの可能性が展示されていました。

一番判らないのが、この時代の接着剤とか。。。。

その候補として「にかわ」「漆」「ゴマ油」だとか。。。。。

興味深深でした。



九州の装飾古墳に使われた顔料



装飾古墳の壁画顔料を溶いた接着剤の候補 「エゴマ」「膠」「漆」

高松塚よりも古い時代に こんなに美しい装飾古墳があったこと驚きです。ちなみに この王塚装飾古墳の赤は酸化鉄・ベンガラ。古代顔料・接着剤 書き物で色々読んだり、聞いたりしましたが、現物と画描と対比展示してみたのははじめて。。 顔料が実際の絵になるさま 初めての思いです。

王塚古墳 やつぱり 国宝の本当に素晴らしい遺跡でした。

やっぱり 装飾古墳は古代和鉄の道に花ひらいた文化でなかったか。。。。。

ばらばらだった古代の筑紫の国「装飾古墳の集積地は古代 産鉄の地」との思いが身近に。。。。。

おそらく 朝鮮半島の高度な鉄の技術集団がからんでいるだろう。

今までの和鉄の道と装飾古墳 一度重ねて調べなおしてみよう。

ちょうど時代は大和王権が確立中央集権化する時代 また 朝鮮半島から奥の技術集団がやってきて鉄の自給が始まった時代 記紀神話・出雲神話・風土記と多くの製鉄伝承が錯綜する時代である。

なんか 無手勝流にかんがえてきた日本誕生と和鉄の道のドラマが結びつく。

いいテーマまが出てきたとルンルンで 遠賀川沿いを通して関門大橋へ 帰路に着きました。

2005.10.15. 関門大橋を渡りつつ、古代の鉄の道にひたって

Mutsu Nakanishi

2. 装飾古墳概要とその時代

鉄の自給へ向けた技術競争と朝鮮

2.1. 北九州なと限られた大河流域で花咲いた謎の装飾古墳群

5世紀から6世紀にかけて 北九州そして東国などごく限られた地域に鮮やかな装飾文様で彩られた装飾古墳文化があった。特に 北九州の遠賀川・筑後川・菊池川流域には その半数以上が存在し、もうひとつの集積地は常陸の北部地域である。

当初 北九州に出現し、築上された墳丘の横穴式石室の石棺に簡単な円文・直弧文・幾何学文様などが鮮やかな赤・黒・黄などの顔料で描かれ、6世紀に入ると石室の奥に石屋形が設置され、馬・盾・弓など数々の形象図形文様も登場してそれを色鮮やかに飾るとともに地域を拡大しながら、東国へ伝播してゆく。

そして、7世紀になるとこの文化は次第に衰退して消滅する。墳丘と同時期につくられた横穴にも同じ系譜がある。他の地域には現れなかった装飾古墳群の文化 謎の古代文化である。

【 代表的な装飾古墳とその内部の壁画文様 王塚装飾古墳館展示資料ほかより 再構成 】



福岡県桂川町 王塚古墳



熊本県山鹿市 チブサン古墳



5世紀 石人山古墳 前方後円墳
直弧文
福岡県広川町 筑後川流域



6世紀 チブサン古墳 前方後円墳
幾何学文 人
熊本県山鹿市 菊池川流域



6世紀 千金甲1号墳 円墳
同心円文 刃
熊本県熊本市



6世紀 竹原遺跡 円墳
人物・鳥・キザハシ・怪獣・船ほか
福岡県若宮町 遠賀川流域



6世紀 王塚古墳 前方後円墳
武器・馬・人物・幾何学文・蕨手文双脚輪状文
福岡県桂川町 遠賀川流域



6世紀 日岡古墳 前方後円墳
同心円文・馬・船・魚・盾・刃ほか
福岡県吉井町 筑後川流域



7世紀 清戸サク76号横穴墓
人物・渦巻文・矢・馬・犬ほか
福島県双葉町



7世紀 虎塚古墳 前方後円墳
刃・矛・船・幾何学文・同心円ほか
茨城県ひたちなか市 那珂川流域



装飾古墳の分布

大陸・朝鮮半島には 日本の装飾古墳と同じ文様がそっくりそのまま描かれたような古墳はまだ、発見されていない。しかし、横穴石室に精細な人物壁画を有する装飾古墳は高句麗で2世紀頃から始まっており、横穴石室を装飾することのルーツはやっぱり高句麗など朝鮮半島の影響といえる。

直弧文や円文・三角文などの幾何学文は日本固有の文様で、蕨手文やなどは南方系の隼人族などの特長を持つといわれている。

とはいえ、赤 緑 黒 白などの顔料を用いて弧線・円・三角形・舟・鳥・馬など、さまざまな図文が描かれた装飾古墳は、別名「黄泉の国の芸術」とも呼ばれ、死者を弔う気持ちが強く表現されているといわれますが、今なお多くの謎に包まれています。



装飾古墳の文様 王塚装飾古墳館展示解説より

5世紀 装飾古墳の初期には 直弧文や三角文・円文などの幾何学文中心でしたが、やがて6世紀になると蕨手文など素朴な図柄や弓矢・盾などの武具 そして船や人物・馬・カエル・鳥など造形を表現する文様を同時に描くなど変化を遂げつつ、6世紀後半には大陸・高句麗の思想性を色濃く帯びた装飾も現れる。

この連続三角文や同心円文などの文様、朱や青などの強烈な彩色などは、葬送儀礼への古代人の祈りをあらわし、造形を表現する文様は古代の精神世界を伝えているといわれ、例えば、舳先に鳥がとまった舟に人や馬を乗せた絵からは、当時の人々の死生観を知ることができる。

装飾古墳は、古代人が未来に託したメッセージと言えるかもしれない。

そして 6世紀後半になると 月をあらわすヒキガエルや玄武・朱雀など高句麗壁画の材料が描かれたものも現れてくる。すなわち、文様も日本固有の文様から大陸・高句麗の文様の影響が現れてきていると考えられる。また、5世紀から時代が下るにつれ、装飾の規模も石室内の石棺・石屋形の装飾から複式の石室を持ち、それら石室全体を豪華絢爛に飾る装飾へと移ってゆく。

2.2. 装飾古墳の時代は大和王権の建設期 鉄の安定供給を求めて大陸・朝鮮へ

装飾古墳に描かれた文様は朝鮮半島にある壁画古墳とは大きく異なっているが、石室の石棺や壁に彩色壁画を残す文化は高句麗に古くからあり、装飾古墳のルーツも朝鮮半島であろう。

当時 日本は有力豪族の連合体である大和王権が統一国家を着々と進める過程にある。

この、大和王権の支配の初期には、地方豪族は自分の支配地での統治が認められており、まだ地方には中央の直轄組織である国造などの直接統治組織は形成されておらず、地方の豪族は大和王権の中で自分たち自分たちの王国を建設し、その力の印・大和王権の傘の中にある印としてとして前方後円墳の建設を許され、日本各地の国で前方後円墳を中心とした巨大な墳丘が建設された時代である。

こんな時代の中で、限られた地域の地方を支配する王族（豪族）の墳丘墓や横穴墓として装飾古墳群が現れてくる。

（律令政治が始まり、大和の直接支配が始まるのは大化の改新の後7世紀半ばまで待たねばならない。

それまでは 地方の豪族もそれぞれの王国で大きな力をもっていたと見られている。）

装飾古墳が現れた5,6世紀頃 朝鮮半島は、長く朝鮮半島を支配してきた、漢の衰退により大陸支配から脱した三国時代。北に高句麗・百済・新羅そして南端に伽耶の小国家群が並立していた。

一手に日本に鉄素材を供給してきた伽耶・任那の諸国が新羅・百済の重圧に侵され、かつ高句麗の南下にさらされた百済・新羅が鉄の安定供給基地 伽耶諸国と密接に関係する大和王権と連携・抗争しながら、大和王権をも巻き込んだ戦乱の中 次第に新羅が勢力を拡大する。

ますます日本への鉄の移入は難しくなり、自給が必須課題となっていた時代である。

一方、国内では、紀元前4世紀にはもう鉄器が伝来し、その後 技術・文化は大陸・朝鮮半島との密接な交流を通じて、朝鮮諸国より、鉄の安定供給を受けてきた。

多くの技術・文化が次々と伝来し、技術移転が行われたのに対し、製鉄技術だけは5世紀後半まで約1000年の長きに渡って移転できず、鉄の自給が始まるのは5世紀半ば以降であると言われている。

この間 卑弥呼の時代から聖徳太子の時代まで「朝鮮半島から鉄素材が輸入され続けるというのに・・・」である。しかも、大陸・朝鮮半島との人・文化・技術の交流は連綿と続き、あれだけ多くの渡来人がやってきて 日本統一を推進してきた大和の王権が常に「朝鮮半島からの鉄の覇権」を最大外交課題とてきたのにかかわらず・・・。朝鮮半島の鉄の覇権をにぎった大和王権そして大和の豪族・地方の豪族たち そして渡来人技術集団 それぞれが、力の源泉を求めて鉄の新技术には躍起になったろうに・・・

一般には大和を中心とした豪族連合大和王権がこの朝鮮半島の鉄輸入の覇権を支配して、日本各地の豪族たちを支配していったというのが通説であるが、歴史に登場した九州の諸国 出雲 伯耆・丹後 若狭 越の日本海諸国 吉備・播磨・河内・近江・尾張そして東国の諸国で数々の豪族たちが 鉄を産する「百済・伽耶諸国・新羅」の朝鮮半島諸国と連携しながら、鉄自給を目指した技術競争が繰り広げられたに違いない。出雲神話・記紀神話そして風土記など各地に残る伝承はその過程が異説を含めて面々と伝えているという。鉄器が伝来し、鍛冶加工による農具・武器・武具など鉄製品が広がってゆく中で 本当に 1000年もの長きに渡って 鉄素材は自給できなかったのだろうか・・・

この長い間、鉄の自給をもとめてどんなドラマがあったのか。。。。



3世紀 朝鮮半島の鉄を求めて 500年頃の朝鮮半島

たたら製鉄の前夜・鉄自給開始の謎は古代史のロマンとして邪馬台国とともに今もってベールに包まれたままである。

参 考

季刊考古学 13「東アジアの装飾古墳を語る」2004年2月

王塚装飾古墳館 資料

3. 熊本県菊池川流域に古代「火（肥）の国」の製鉄遺跡群を探して

菊池川下流北岸に点在する小岱山製鉄遺跡群と玉名市疋野「炭焼き長者」伝説



菊池川流域を訪ねた時にこの流域で砂鉄が取れることを聞いて、「古代にこの菊池川流域に製鉄遺跡があったのでは。。。と」考え、熊本県立装飾古墳館の江本氏に資料をお願いし、菊池川の河口近く北側の丘陵地に点在する小岱山製鉄遺跡群の資料を送っていただきました。

(荒尾市文化財調査報告書第7集「金山・樺製鉄遺跡群調査報告書 - 小岱山麓における製鉄遺跡の調査 - 」)

資料によると直接この菊池川流域での古代製鉄遺跡は見つからないものの菊池川の河口に近くの両岸近く、南側の三の山北側の小岱山にそれぞれ、中世・平安時代の製鉄遺跡群があり、同時にこの川の流域で、さらに時代をさかのぼれる鍛冶滓や精錬滓などが発見されているとの報告があり、装飾古墳群との直接的なつながりは見つけれませんでした。

しかし、装飾古墳文化の中心菊池川の中流域には文化が現われるすぐ前の時代に鍛冶場があり、石型鉄包丁など数々の鉄器が出土した大環濠集落山鹿市方保田東遺跡があり、この菊池川流域が「火の国」の中心地として古くからの産鉄の地であったことがわかる。

実際に見聞したわけではありませんが、この資料ならびに昨年出かけた菊池川流域をもとに、この菊池川周辺の製鉄遺跡についてとりまとめました。

また 菊池川の河口に近い玉名市には 古代製鉄と関係深い豪族玉名日置氏の根拠地（疋野）で、ここには「疋田長者」伝説 いわゆる古代製鉄と関係深い伝承「炭焼き長者」伝説がありました。

古代日本誕生の黎明期に熊本県菊池川流域に忽然と現われ忽然ときえた「装飾古墳の文化」が渡来製鉄の技術集団の足跡



小岱山製鉄遺跡群



熊本県の装飾古墳分布と製鉄遺跡群

ではないかと考え、調べ始めた菊池川流域 古代の和鉄の道。

本当に半信半疑でしたが、脈々と古代の鉄の痕跡があると感じています。

2005.2.25. Mutsu Nakanishi

3.1. 菊池川流域 古代製鉄の足跡を探して

3.2. 「炭焼き長者伝説」 疋野長者伝説

3.3. 熊本県 装飾古墳群と熊本県の製鉄遺跡の関係まとめ

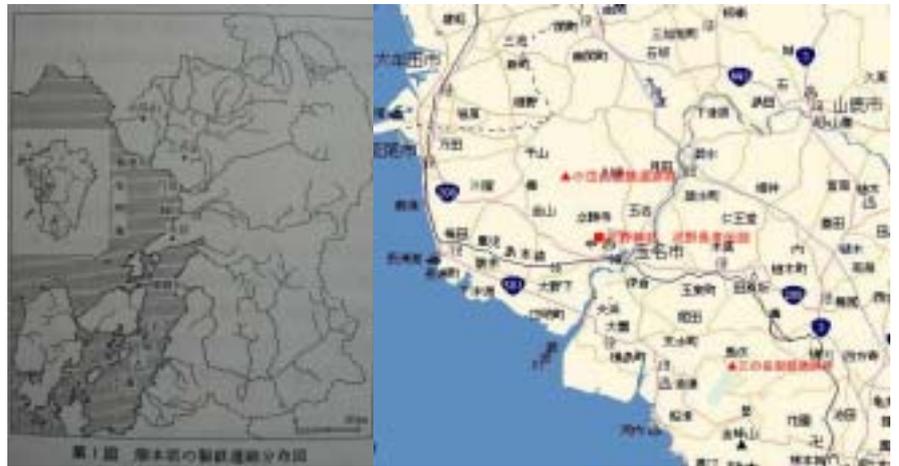
3.1. 菊池川流域 古代製鉄の足跡を探して

熊本県立装飾古墳館の江本氏より送っていただいた資料「金山・樺製鉄遺跡群調査報告書 - 小岱山麓における製鉄遺跡の調査 - 」(抜粋)をベースに菊池川流域の古代製鉄遺跡の痕跡を調べた。

熊本県には約 120 箇所の製鉄遺跡があり、菊池川北岸の小岱山周辺 菊池川の南にひろがる金峰山塊の三の岳周辺そして宇土半島の大岳周辺の 3 箇所に集中し、なかでも小岱山周辺に持つとも多い。

これらの地域はいずれも古代遺跡分布の密度の濃い地域でもある。

小岱山製鉄遺跡群



熊本県の製鉄遺跡

本州から帯状に伸びる北九州花崗岩

帯の南端がこの小岱山を含む菊池川北岸で、良質な鉄を含んでいる一帯と考えられ、古くから和鉄精錬が行われ、この小岱山山麓を取り囲むように製鉄遺跡群があり、小岱山製鉄遺跡群と呼ばれる。この製鉄遺跡群でもっとも古い製鉄遺跡は金山地区の大藤 1 号遺跡で 9 世紀頃と見られている。そして 最も多くの遺跡は 11 世紀・12 世紀の平安時代の遺跡と見られ、鎌倉時代まで製鉄が営まれたといわれる。



熊本県荒尾市・玉名市・南関町に広がる小岱山製鉄遺跡群

小岱山周辺では、北麓の玉名郡南関町に 1 遺跡(大谷遺跡) 東・南麓の玉名市に 5 遺跡(六反・広福寺裏・築地小岱、斧砥・蛇ヶ谷遺跡)が見られるほか、西麓の荒尾市に最も集中し、平山・樺(かば)・金山地区に 25 遺跡が知られています。

小岱山製鉄跡群はこれらの製鉄遺跡を総称した呼び方である。
それぞれの遺跡からは炉壁片・羽口と大量の鉄滓などが出土しているが、大藤 1 号遺跡ではゴルフ場造成に伴う発掘調査が行われ、完全な形の製錬炉 1 基、炭窯 9 基、廃滓場等が発掘された。

製錬炉は、全長約 90cm、炉床の長さ 87cm、幅 32～37cm、炉壁の高さは残存部で約 23cm。炉の構造は、半地下式竪型炉で、本体の前方に「八」字状の前庭部（作業面）を持ち、炉床は緩やかに傾斜（約 12 度）していた。廃滓場は、炉の下方の斜面に広がり、鉄滓、炉壁羽口、土器等が出土。炭窯は、直径 130～235cm の円形で、最も深いもので 69cm。焚口や煙道は確認されなかった。

出土した須恵器の年代から 9 世紀と考えられ、小岱山周辺においては最も古い製鉄遺跡である。



大藤 1 号遺跡

http://cyber.pref.kumamoto.jp/arinomama/contents_dbpac/asp/bunkazai/

http://www.pref.kumamoto.jp/education/hinokuni/tuushinkumamoto/no.5/no5_5.html より

三の岳製鉄遺跡群ほかの製鉄遺跡

三の岳は菊池川による沖積平野を間に小岱山と対峙した菊池川の南にあり、三の岳の北側中腹や山麓に 8 箇所の製鉄遺跡が確認されているが、十分な資料がないが、平安時代の遺跡と見られている。

また、宇土半島の基部にある大岳製鉄遺跡ではさらに年代は新しいとみられているが、十分な資料がない。これらのたたら遺跡のほか 近世 球磨川左岸の段丘で営まれた八代鉄山や 益城町の馬水鉄山がある。

以上示したとおり、古代に遡れる製鉄遺跡として 菊池川流域にある小岱山製鉄遺跡群が在り、三の岳製鉄遺跡も周辺の古代遺跡の重なりから古代に遡れるかもしれない。しかし、どちらも現在のところ、装飾古墳が出現した 5 世紀～7 世紀にまで遡れる製鉄遺跡は発見されていない。

しかしながら、菊池川周辺では 古代たたら黎明期まで遡れると考えられる鉄滓が断片ではあるが、出土している。

その中で 3 世紀末から 4 世紀はじめにかけて数々の鉄器が出土した大環濠集落 山鹿市の方保田遺跡は重要であろう。

方保田東原遺跡

菊池川の中流 山鹿市の東、菊池川とその支流の方保田川にはさまれた台地の上に広がる弥生時代後期から古墳時代前期（今から約 1700 年～1900 年前）に繁栄した大環濠集落遺跡で、鉄製のさまざまな道具である鉄器を作った鍛冶場と思われる



菊池川中流 山鹿市周辺

る住居跡も発見。

3世紀後半から4世紀初頭期の多数の鉄器と共に全国で唯一といわれる石包丁形鉄器が出土し、また、特殊な出土品として巴形銅器をはじめとする数多くの青銅製品も出土した。

当時この流域の中心的集落と考えられ、その背景には豊富な鉄の存在があったと考えられる。

そして その後の5～6世紀 この方保田遺跡のすぐ西の菊池川中流流域の台地の上では装飾古墳群（チブサン・オブサン古墳・鍋田横穴古墳群・岩原横穴古墳群など）が花咲く。地菊池川流域古代の中心地。「火の国」の中心地である。

まさに 装飾古墳と鉄との出会いと感じています。

昨年9月 山鹿市博物館で「石包丁型鉄包丁」が展示されているのを見ましたが、その時は装飾古墳に眼をうばわれ、こんな背景が後ろにあるなどつゆ知りませんでした。



このほか「金山・樺製鉄遺跡群調査報告書 - 小岱山麓における製鉄遺跡の調査 -」（抜粋）資料に書かれている古代の菊池川流域の和鉄関係の記録を拾って書き留めておく

- | | | |
|-----------------|-----------------|-------------|
| 1. 玉名郡岱明町 下前原遺跡 | 弥生時代末期 鉄片・鉄滓の出土 | 菊池川河口近くの北岸地 |
| 2. 玉名郡菊水町 諏訪原遺跡 | 弥生末期 鉄片出土 | 菊池川中流 |
| 3. 荒尾市 野原八幡古墳群 | 一号古墳墳丘から鉄滓出土 | 小岱山周辺 |

「金山・樺製鉄遺跡群調査報告書 - 小岱山麓における製鉄遺跡の調査 -」（抜粋）より

3.2. 「炭焼き長者伝説」 疋野長者伝説

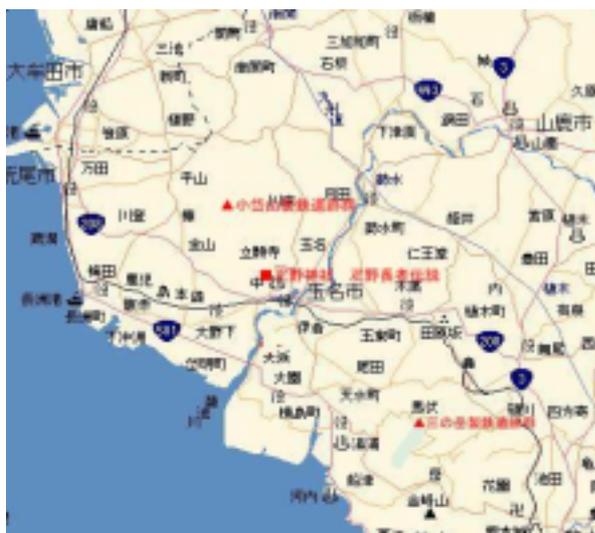
菊池川の河口に近い玉名市には 古代製鉄と関係深い豪族玉名日置氏の根拠地（疋野）で、ここには「疋田長者」伝説 いわゆる古代製鉄と関係深い伝承「炭焼き長者」伝説がありました。



玉名市



疋田神社



「疋田長者」伝説 玉名市疋田

玉名市 インターネットホームページより

千古の昔、都に美しい姫君がおられました。

「肥後国疋野の里に住む炭焼小五郎という若者と夫婦になるように」との夢を度々みられた姫君は、供を従えはるばると小岱山の麓の疋野の里へやってこられました。

小五郎は驚き、貧しさ故に食べる物もないと断りましたが、姫君はお告げだからぜひ妻にと申され、また金貨を渡し米を買ってきて欲しいと頼まれました。

しかたなく出かけた小五郎は、途中飛んできた白さぎに金貨を投げつけました。

傷を負った白さぎは、湯煙立ち上る谷間へ落ちて行きましたが、暫くすると元気になって飛び去って行きました。

米を買わずに引き返した小五郎に姫君は「あれは大切なお金というもので何でも買うことができましたのに」と残念がられました。

「あのようなものは、この山の中に沢山あります」との返事に、よく見るとあちこち沢山の金塊が埋もれていました。

こうして、めでたく姫君と夫婦になった小五郎は、疋野長者と呼ばれて大変栄えて幸福に暮らし、白鷺が元気になった湯が、今の玉名温泉となった。

この「炭焼き長者伝説」は、日本各地に存在し、総じて、炭焼き・鍛冶・冶金・タタラなどのたたら製鉄と関連した伝承と言われており、また 疋田神社の祭神、波比岐神は「灰吹き」の意味ともいわれる。また、この疋田神社は古代この地方でたたら製鉄に従事した玉名の豪族 日置氏の氏神とも言われる。日置氏は出雲で製鉄に従事した日置氏と同族の豪族であろうと考えられている。

3.3. 熊本県 装飾古墳群と熊本県の製鉄遺跡の関係まとめ



熊本県 装飾古墳群と熊本県の製鉄遺跡の位置関係

菊池川の流域 あまり良く知りませんが、古代早くから開けた「火の国」文化の先進地。古代遺跡が点々と連なっている。

そんな中で、この地に忽然と現われ、忽然と消えた「装飾古墳文化」和鉄生産の先進地でもあった。

この菊池川流域から弥生時代 石包丁に変わる鉄包丁がはじめて出土し、文字が刻まれた鉄剣がでた江田船山古墳もある。菊池川北岸の小岱山製鉄遺跡群は平安時代の製鉄遺跡群と言われており、さらに古代初期まで遡れるかも知れない。古代の製鉄伝説があり、和鉄に関係した玉名日置氏の存在も……。



九州・中国地方の花崗岩ベルト



菊池川流域の山並み

この地は古代 鉄の黎明期 装飾古墳の文化が花咲いた5～6世紀末にも火の国の製鉄の中心地として 畿内中央政権のみならず、大陸・朝鮮半島とも独自の交流をもっていたとの意を益々強くする。装飾古墳はそんな産鉄の技術集団が残した足跡であつたらう。

2005.3.1. by Mutsu Nakanishi

4. 日本の古代製鉄地帯と装飾古墳群の重なり

朝鮮半島との人・文化の交流の中で、大和王権と同様に日本各地の豪族・王国と結んで、日本での鉄の自立に挑んだ渡来人技術集団が数多くいたに違いない。

その足跡のひとつがこの限られた時期に限られた場所に装飾古墳が現れた理由でないか……

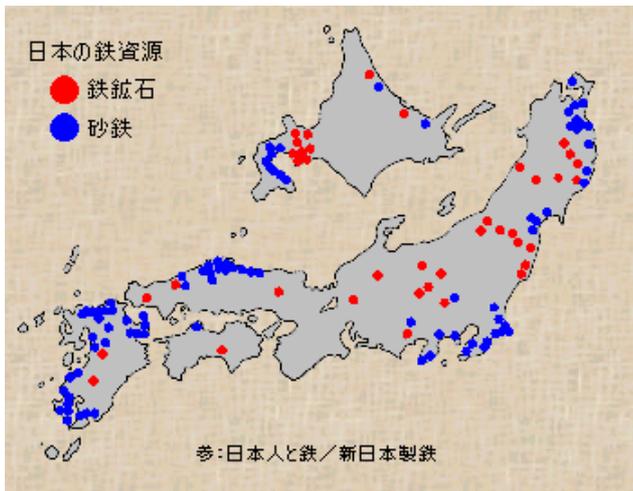
そして、大和王権を中心とした豪族連合政権から大和中央政権が確立し、広く鉄の自給が進む7世紀にはこの装飾古墳文化は消滅する。

筑紫・火・豊の九州で そして 日本海沿岸の出雲・伯耆・越へ 瀬戸内の吉備・讃岐・播磨・河内・近江へ そして東国 常陸・房総へと拡大する。これはまさに古代の鉄の道でなかったか……

弥生時代の製鉄技術から古墳時代になると出土する鉄滓の質・量などの変化から、朝鮮半島から鉄素材とともに鍛冶新技術が入り、北九州で 鍛冶技術の革新がはじまり、鉄精錬の模索も始まったと考えられる。実際に「たたら製鉄炉」が出土し、製鉄がおこなわれたのを明確に示すのは6世紀後半吉備 千引カナク口谷や大蔵池南などの製鉄遺跡 丹後の国 古橋・遠所製鉄遺跡などである。

一方 大和政権でも 4 世紀後半になると畿内の王権を形成する豪族たちが、それぞれ、専門の鍛冶工房を経営して鉄器生産に乗り出す。そして、5 世紀半ば河内の大県などの大鍛冶工房に次第に集約されてゆく。この大県鍛冶工房では大量鉄滓・羽口の出土からこの工房の周辺で精錬がはじめられていたと見られている。そして 7 世紀後半になると南近江源内峠や木瓜原遺跡でも鉄精錬がはじまる。これら大和王権の鉄の精錬にも、多くの渡来鉄の技術集団が加わっていたにちがいない。

日本の鉄の自立を推進した鉄の渡来人技術集団のひとつが産鉄の地で残した足跡がこの装飾古墳群と考えれば、時期・場所の痕跡が見事に符合する。まさに胸わくわくの話である。



日本の鉄資源



装飾古墳群の位置

【北九州・福岡の山地と大河の概要】

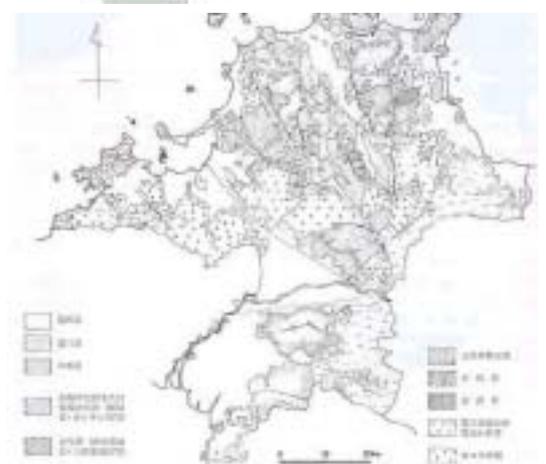
福岡県は佐賀県とは東西に伸びた脊振山地および筑後川で境され、南東の大分県とは英彦山地、熊本県とは釈迦岳山地で境される。英彦山地に源を發する遠賀川が筑豊盆地、大分県の九重連山に源を發する筑後川が釈迦岳山地から西へ伸びた耳納山地の北を西進し、釈迦岳山地から流れ出した矢部川と共に有明海へ注いでいる。また、県北西部では背振山地からの諸川が北の博多湾に流れ下る。また、釈迦岳山地・肥後山地からは熊本県側で菊池川が有明海に注いでいる。この他、福岡県の内部に英彦山地から西へ伸びる古処山地や三郡山地・福智山地（福智山 901m）がある。



これら九州北部の地域では白亜紀後期には中性ないし酸性マグマによる火山活動が活発で、花崗岩・花崗閃緑岩が非変成古生層、変成岩類、白亜系などに貫入した。そしてその後の地殻変動で地表近くまで持ち上げられ、侵食作用によって地表に露出し、脊振山地、三郡山地南部は主として花崗岩類で形成されている。

このように北九州 福岡県の南の県境部をなす山岳部には幅広く花崗岩ベルトが形成されており、そしてこれらの山地から流れ下る川の河口等には砂鉄がある。

九州の製鉄遺跡はよく調べていないが、朝鮮半島から一番先に製鉄技術が持ち込まれた場所に違いなく、そんな砂鉄を堆積させる北九州の大河流域で装飾古墳が 5 世紀から 6 世紀に花開く。



福岡県を中心とした地質図

そして、瀬戸内・讃岐・吉備 日本海側の出雲・伯耆・越から 北九州は花崗岩ベルトが幅広く分布
東国房総・常陸に伝播する。まさに古代の鉄の道。



九州について装飾古墳の集積が大きい東国 常陸でも背後の山地からは大量に砂鉄を産し、そこを流れ下る那珂川・久慈川の流域で装飾古墳の文化が花開く。

どの地域も 5,6 世紀から 7 世紀初頭世紀にかけて装飾古墳の文化が花開いた時代に鉄の自給を示す製鉄遺跡が見つまっているわけではないが、そのそれぞれが、次の時代 鉄の自給がはじまると重要なたたら製鉄地帯となった諸国である。この古墳時代時代 数多くの古墳が作られ、大和王権連合体の象徴として前方後円墳が王権の証しとして各地に作られるが、限られた地域それも限られた産鉄の地に 大和王権連合の印である前方後円墳もふくめ、装飾をこらした大きな墳墓が作られていると見える。

やっぱり 古代鉄自給へ向け、大和王権のみならず、日本各地でその地方の豪族たちが鉄の自給にむけた試みた。高度な製鉄技術を持つ技術集団をかかえ、技術先端の証拠として彼らが持ち込んだ装飾古墳の文化を組み入れたのではないか。。。。。

装飾古墳文化が花咲いた地域とそこを流れる大河流域

6 世紀半ば 九州で磐井の乱がおこる。その中心は装飾古墳文化が花開く筑後川流域の勢力である。それらが筑紫・火の国の勢力を糾合して大和王権連合と対抗する。まさに装飾古墳連合が大和政権に対峙する。この乱は「大和王権が積極的な交流・鉄供給を受けていたメインルート百済・伽耶に侵略する新羅」をたたくことに反対した親新羅九州勢力の「鉄の技術・供給ルートを巡る戦い」の側面を持っているといわれる。この時代 鉄の技術の獲得が重要な課題であったかを示す出来事である。

そして、九州連合は敗れるが、抹殺されたわけではなく、装飾古墳は続くが、次第に衰退してゆく。

鉄の技術集団が断絶したのか もう鉄の技術集団に頼らずとも鉄の自給が完成したためなのか よくわからないが 7 世紀になると衰退する。

一方大和政権は 6 世紀後半から次第にたたら製鉄による大規模な鉄の自給が始まり、7 世紀には官営の鍛冶工房と組み合わせさってますます鉄の支配力を高めてゆく。

こんな装飾古墳の文化にたたら製鉄前夜 鉄の自給に向けたロマンを託すのは無謀でしょうか。。。。

鉄のロマンとよく言われますが、古代の鉄の道に装飾古墳のすばらしい文化が花咲いたとイメージするだけで、うれしくなる。

装飾古墳の文化のみならず、数々の鉄自給への試みが日本各地で行われ、多くの伝承・神話として今に残されていると思う。それをひとつひとつ掘り起こしてみるのも面白い。

2005.2.15. 九州の装飾古墳に古代鉄の道のロマンを託して

Mutsu Nakanishi

参 考

季刊考古学 13「東アジアの装飾古墳を語る」2004 年 2 月

王塚装飾古墳館 資料

福岡県の自然 インターネットより

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/kankyo/rdb/kaisetsu/sizen.htm>

5. 装飾古墳のルーツは・・・朝鮮半島鉄の供給地との関係

「たたら製鉄誕生前夜 和鉄の道に装飾文化が咲いた」こんな夢

これが本当とするとそのルーツはどこか。。。朝鮮半島にその痕跡はあるのか。。。。

この装飾古墳文化を倭の人と共有した鉄の技術集団の根拠地はどこか。。。

現状ではまったく判らないし、確かな根拠があるわけではない。朝鮮半島にその想像をたくましくしている。

5,6世紀頃 日本に鉄の供給基地としてよく知られているのは洛東江東岸の伽耶諸国・百濟・新羅であるが、朝鮮半島から供給された鉄素材「鉄テイ」の分布から見るともうひとつ朝鮮半島の南東端 慕韓栄山江流域がある。



この栄山江流域は朝鮮半島の南端にあって、古くから中国や高句麗・百濟への海路の中継地であり、九州の豪族たちは広く交流を行っていたと考えられている。5,6世紀には日本固有の墳墓といわれた前方後円墳が

この地に築かれており、日本との強い関係の証となっている。もっとも装飾古墳ではないといわれているが。。

5世紀 日本への鉄の供給基地「伽耶」の中心は金海伽耶を中心とした洛東江東岸伽耶諸国であったが、5世紀半ばから新羅の圧迫を受け、6世紀半ば532年にはその中心国金官伽耶が新羅に滅ぼされる。

一方 洛東江西岸高霊の大伽耶は5世紀半ばから洛東江西岸の諸国と連携して成長しつつ新羅に対抗する。これらの情勢変化につれ、日本への鉄供給基地の中心も西に動く。しかし、562年大伽耶も新羅に併合され、ますます、日本の鉄入手は厳しくなる。

一方、大和政権と連携する百濟は高句麗に475年漢城を追われ、南の扶余に移り、勢力を伸ばす新羅に対抗しつつ、伽耶諸国を圧迫し、6世紀はじめには栄山江周辺域を手に入れる。

すなわち、周辺諸国間で激しい争奪戦がこの産鉄の地栄山江流域地帯にも及ぶ。

伽耶は562年大伽耶が新羅によって滅ぶことにより消滅する。そして、660年百濟もまた、新羅によって滅び、さらに668年高句麗も新羅に滅ぼされ、朝鮮半島は新羅によって統一される。

この栄山江流域周辺は高句麗・百濟・新羅そして伽耶それに日本の大和王権も加わる交易路の中心にあり、この地の争奪戦が繰り広げた国際戦乱の場。高句麗との交流もあったろう。

その中心には「鉄」があり、人・技術・物が大きく動いたに違いない。群雄割拠の戦乱の中、鉄素材製造技術の厳しい統制と鉄素材供給を武器に日本と交流してきたしてきた百濟・新羅・伽耶諸国。そして 高句麗。そのいずれにも帰属がはっきりしない交易路の真ん中にあるこの栄山江流域の鉄は日本にとって大陸・高句麗までも含めた朝鮮半島最新の技術・情報の窓口であったにちがいない。

百濟と組んだ大和王権または北九州から派遣された集団が力誇示のためつくったのが、この地に残る前方後円墳か。。。。

また、6世紀前半 洛東江西岸宜寧地域に石柵を持ち横穴式石室を内部主体とし、石屋形石棺や石室内部を赤色顔料で塗布された墳丘墓が残され、これもまた、大和王権との深い関係を示す遺跡と考えられる。

喉から手が出るほどほしかった最新の製鉄技術がここにあり、この戦乱の中で、日本そして北九州の地を永

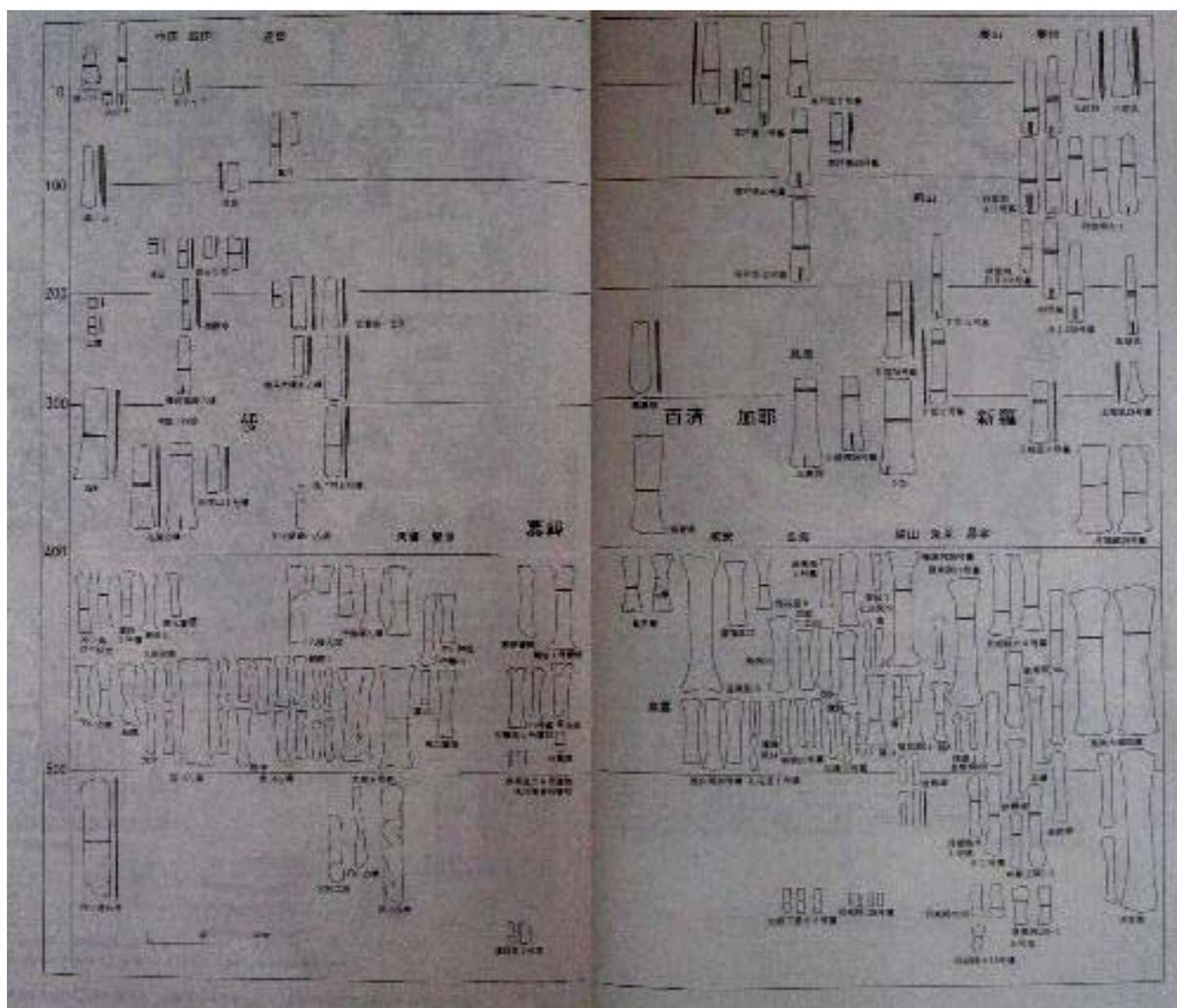
住の地に選んだ土着・流浪の技術グループがいてもおかしくない。特に北九州とは長い交流の歴史がある。



4,5世紀 朝鮮半島の産鉄の地と鉄素材 鉄テイの出土 と 日本と大陸・朝鮮半島の交易路

第5回暦博国際シンポ「古代東アジアにおける倭と伽耶の交流」資料によると栄山江流域の後背の山には鉄鉱石があり、鉄精錬が行われていたと考えられ、この慕漢の地からも鉄テイが出土している。

百濟・伽耶・新羅では弥生時代から鉄テイが出土しているのに慕韓では5,6世紀に限られている。



このことから、この時代が最も鉄生産が盛んで、高句麗・百濟・伽耶などの周辺諸国と非常に近い地形が鉄生産を可能にしたと考えられ、その集団の一部が北九州にやってきたと考えられないだろうか。。。

古代 日本・朝鮮半島の産鉄の地と鉄素材 鉄テイの出土

その技術集団の母国は高い鉄の技術水準を持ち 墳墓には装飾壁画のある高句麗が・・・・・・・・。

当時の日本では、鉄の自給へ向けた製鉄技術革新の真っ最中。

各地で渡来の鉄の技術集団が自給に向けて、鉄原料を捜し求め、鉄鉄精錬を推し進めていたに違いない。

慕韓の地が日本の前線基地であったように、高句麗・百済・中国の前線基地であったかも知れない。

北九州にやってきた鉄の集団は製鉄技術水準の高い高句麗であったのではないか。。。。。

その集団の忘れていた母国・消えてしまった母国への思いが、装飾古墳になったのか。。。。、



新羅 慶州 土偶付陶器



北近江 古墳に朝鮮半島の色濃い影響を見る

なんの根拠もないが、限られた産鉄の地に忽然と現れ、忽然と消えたすばらしい装飾古墳群
そして、時を同じくして1000年も得られなかった鉄精錬の技術がもうれつな勢いで日本で普及する。
そんな事象にたたら製鉄前夜・大和王権の確立のロマンを重ねて

「 百済・高句麗・伽耶に近い慕韓の地で戦乱の周辺諸国の狭間にあった高い製鉄技術集団が
日本にやってきて鉄の自給への試みを推進したのではないか・・・・・・・・ 」
そんなこんなイメージを勝手に膨らませている。

参考 第5回暦博国際シンポ「古代東アジアにおける倭と伽耶の交流」資料 2002年3月
よみがえる古代王国「伽耶文化展」資料 1992年6月
黄金の国・新羅 王陵の至宝展 資料 2004年7月
渡来人登場 弥生文化を開いた人展 資料 1999年4月
季刊考古学 13「東アジアの装飾古墳を語る」2004年2月

「和鉄の道 Iron Road」 関連たたら製鉄遺跡探訪記

土井が浜シンポジウム 渡来系弥生人 日本人の ルーツと和鉄の道の接点を求めて	-2
http://www.ne.jp/asahi/mutsuo/nakanishi/jst1aa02.pdf	
黄金吹く行方製鉄遺跡群 福 島県 原町 蝦夷征伐の兵器庫 金沢製鉄遺跡	-4
http://www.ne.jp/asahi/mutsuo/nakanishi/jst1aa04.pdf	
古代鉄の大王国 山陰 伯耆国 溝口の鬼伝 説と大山山麓の大製鉄遺跡群	-5
http://www.ne.jp/asahi/mutsuo/nakanishi/jst1aa05.pdf	
大和政権を支えた近江国の鉄 瀬田丘陵の製鉄地帯	
http://www.ne.jp/asahi/mutsuo/nakanishi/jst1bb13.pdf	
北茨城 「常陸」は産鉄の民が開いた地 北茨城 五浦海岸で砂鉄に出会う	-4
http://www.ne.jp/asahi/mutsuo/nakanishi/izura.pdf	
「鉄の5,6世紀」大和の日本統一を支えた大県製鉄遺跡	-12
北河内の大規模専業鍛冶工房 大県製鉄遺跡探訪	
http://mutsu-nakanishi.web.infoseek.co.jp/iron/4iron12.pdf	